本会記事

# 新年を迎えて

新年明けましておめでとうございます．

一昨年の年頭挨拶の際には，まだ新型コロナウイルス感染症の流行は見られず，穏やかな挨拶となっていましたが，昨年の挨拶は2020年のコロナウイルスの感染拡大があり，生活ならびに協会活動の大きな変化を記しておりました．一昨年の2月頃より第5波となるまでに感染爆発を繰り返しましたが，ワクチン接種も進み，漸く落ち着きを見せ，少し明るい新年が見えたかと思ったのも束の間，昨年末あたりから新変異のオミクロン株が広まりつつあります．デルタ株ほど重症化はしないとの見解もありますが，感染力は倍以上とのことで，このご挨拶を皆様にお届けする頃に急激な拡大となり，第6波となっているか少し懸念するところでございます．

この2年間，コロナに翻弄され，出張制限やテレワークの導入など社会全体のあり方にも大きな変革がありました．一昨年から昨年半ばまでは，人と会うことも儘ならず，オンラインという新しい環境を受け入れざるを得ませんでした．当初事務局も不慣れな事もあり，オンライン開催はコロナ禍の異常事態と思っていましたが，いろいろ経験していく中，旅費や移動時間の削減などメリットも見えてきました．一方，直接対話ができず，交流や掘り下げた話ができないなどデメリットな面も痛感しています．アフターコロナ禍では，オンラインのメリット，デメリットを十分考慮し，協会活動の開催方法なども検討したいと思います．

今年は昨年同様春秋大会と粉末冶金講座を開催します．2022年度春季大会は5月24日（火）～26日（木），朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターにて開催の予定です．現在は，対面開催を目指しています．このオミクロン株がこのまま拡大しないことを祈るばかりです．今大会では1つの企画セッションと7つの講演特集を企画頂き，現在講演募集を行っています．講演特集の1つ“ガラス科学とバイオインスパイアード材料”は「国際ガラス年2022」の協賛行事として特集を組んで頂きます．特集内容は，本誌講演募集に記載していますので，多くのご発表をお待ちします．大会初日には，定時社員総会，2021年度協会賞受賞式も開催予定です．是非新潟へ足をお運び下さい．

粉末冶金講座は，新しく粉末冶金講座として改設し，今年で4回目を迎えます．より易しく，理解して頂けるような内容を企画し，入門，基礎，実用3つの講座に分けて行っていますが，入門講座については，今年更にテーマを細分し，より理解頂き易いものを目指します．改めてご案内しますので，是非ご参加下さい．

また，本年秋，2022年11月13日（日）～15日（火），京都市内の同志社大学寒梅館にて“International Conference on Powder and Powder Metallurgy, 2022, Kyoto (JSPMIC2022)”を開催します．協会主催の国際会議は，2017年に開催した創立60周年記念国際会議以来です．今回も関係分野の著名な方を海外から招き，ご講演を頂く予定をしています．コロナ禍，国際会議での発表，参加が激減し，特に学生や若手エンジニアの方にとって英語を話す機会が失われています．今回開催する国際会議において英語で発表する，英語で座長をする等の経験を頂くためにも，本会で新しい情報発信を頂き，ご参加頂きたいと思います．本誌に1st Announcement and Call for Papersを掲載していますが，間もなくWebサイトも公開しますので，是非発表をご検討下さい．秋季大会については，国際会議に引き続き，11月16日（水），17日（木）の2日間，同会場にて行う予定をしておりますので，日本語でのご発表もお待ちしています．

当協会誌のJ-Stageオンラインジャーナルについてお知らせします．物質・材料研究機構の文部科学省受託事業「元素戦略磁性材料研究拠点」を始めとする永久磁石材料に関する最近の研究成果をまとめたレビュー論文が特集として英文オープンアクセスジャーナル，Science and Technology of Advanced Materials (STAM) 誌に登載されました．この度，同誌に掲載されたレビュー論文を各著者が翻訳し，本誌「粉体および粉末冶金」J-Stageオンラインジャーナルに登載することとなりました．公開は1月末を予定していますが，改めて登載完了となった折にはご案内しますので，是非ご覧下さい．

2022年は，国際会議の開催，粉末冶金入門講座の小改編，分科会活動や協会誌の検討など，協会活動の活性化を図りたいと思います．会員各位には，引き続きご協力を頂きますようお願いします．

最後になりましたが，皆様の今年一年のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます．（井上羊子）